

1万年続いた「支配者のいない社会」

縄文時代、その平等な世界の謎を解き明かす

縄文時代とは何か？

日本史の大部分を占める、
紀元前3世紀まで続いた約1万
年間の時代。

この長い時間、人々はどのよ
うな社会を築いていたのか？

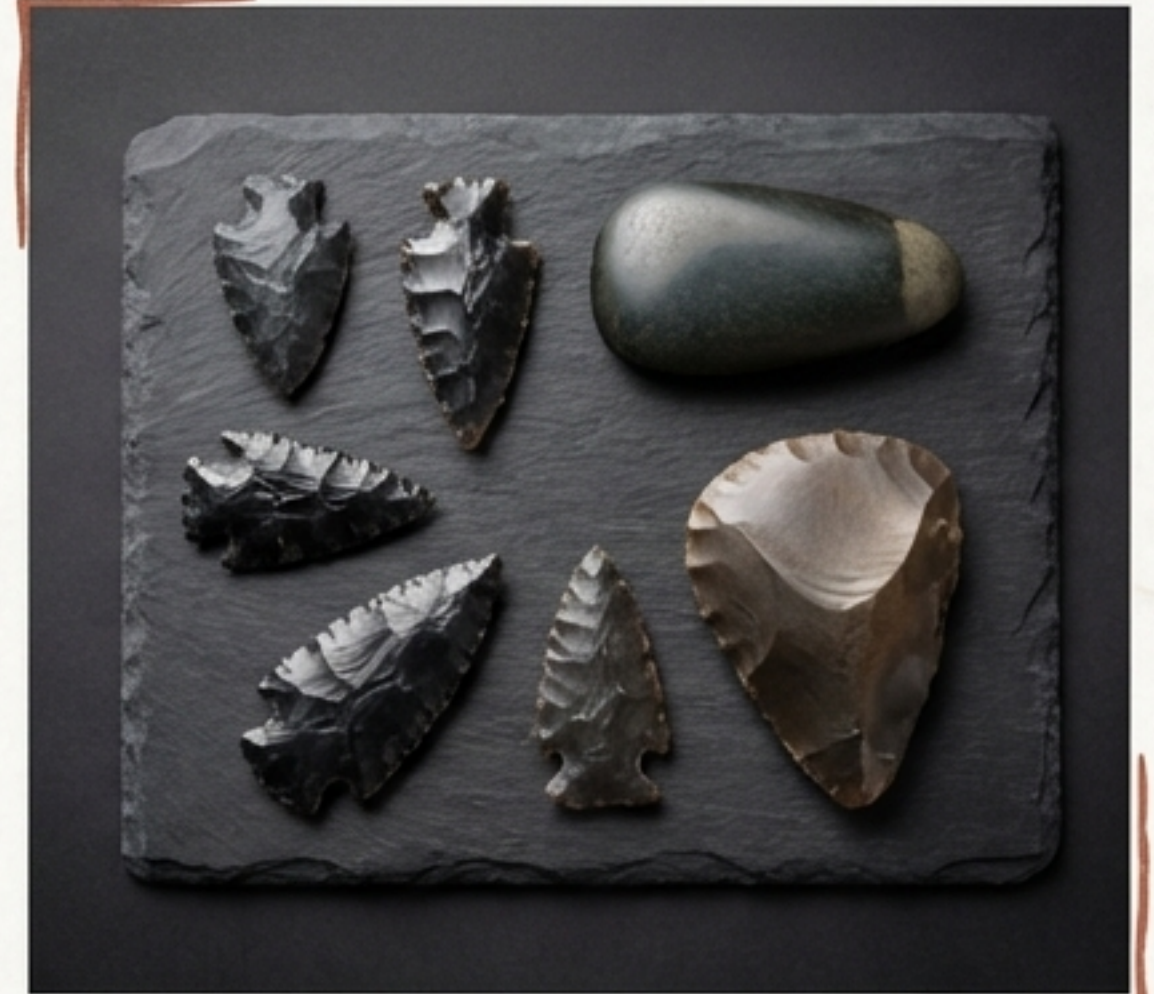


手がかり①：暮らしを支えた道具



縄文土器（Jomon Pottery）

黒っぽく、厚手で、もろい特徴を持つ。
主な用途は煮炊きであり、食料を調理し
安定して摂取することを可能にした。



打製石器（Chipped Stone Tools）

石を打ち欠いて作った、狩猟・採集のため
の道具。

手がかり②：豊かな食生活の記録

大森貝塚（Omori Shell Mounds）

- 食べ終わった貝や動物の骨などを捨ててた場所が、層となって形成された。
- モースによる発見は、日本考古学の始まりを告げるものであった。
- 狩猟・採集によって得られた、多様な自然の恵みを物語っている。





手がかり③：定住社会の証明

三内丸山遺跡（Sannai-Maruyama Site）

青森県にある、縄文時代の大規模な集落跡。

これは一時的なキャンプ地ではなく、長期間にわたる定住的な生活が行われていたことを示している。

狩猟・採集を中心としながらも、人々は協力し、一つの場所に留まる社会を築いていた。



手がかり④：祈りの形

土偶（Dogu Figurines）

豊満な女性の姿をかたどったものが多く見つかっている。

豊作や安産を祈るためのお守りと考えられ、縄文人の精神世界を垣間見せる。

証拠の先に、見えてきた「不在」

見つかったもの



見つからないもの



定住生活、豊かな食、精神文化。これらは高度な社会の証である。
しかし、他の古代文明で必ず見られる「あるもの」が、縄文時代の遺跡からはほとんど発見されない。
それは、権力と格差の証拠である。



導き出される結論：「みんな平等」

食料を長期間保存する技術がなかったため、個人が富を蓄積することは困難だった。

その結果、富を独占する支配者も、それに従う被支配者も生まれなかった。

身分や貧富の差がほとんどない、極めて平等な社会が1万年以上も続いたと考えられる。

縄文社会を構成した5つの要素



縄文土器（Jomon Pottery）：安定した食生活を支えた技術



打製石器（Chipped Stone Tools）：狩猟採集生活の必需品



大森貝塚（Omori Shell Mounds）：多様な自然の恵みの証拠



三内丸山遺跡（Sannai-Maruyama Site）：協力に基づく定住社会の証明



土偶（Dogu Figurines）：自然への祈りと畏敬の象徴



1万年という時間。

それは、争いや格差ではなく、自然との共存と協力によって続いた、
人類史における稀有な物語である。